

研究機関で雇用する特別研究員-PD等の育成方針

深い専門性の涵養や、異なる分野の研究者との協働等を通じて、研究者としての幅広い素養を身に付けさせるとともに、独立した研究者として自らの意志で研究を遂行できる能力を育成することで、アカデミアのみならず産業界等、社会の多様な方面で求められ、活躍できる人材の育成を目指し、以下の取組を行う。

1. 国際的通用力の育成

研究活動における国際的プレゼンスを向上させるため、国際学術雑誌、国際会議等において自身の研究成果を積極的に発表・討論できる国際的通用力を育成する。

<具体的な取り組み>

- ・「英語論文執筆セミナー」、「英語プレゼンセミナー」の開催・受講

2. 教育指導能力の育成

教育現場での実践的な経験を通じ、アカデミックポストを目指す上で必要な教育指導能力を育成する。

<具体的な取り組み>

- ・助教の資格を付与し、講義、演習、実験等1科目以上の担当を必須化

3. 学際的研究力の育成

異なる分野の研究者との交流、他大学や民間企業等との交流を通じ、多様なネットワークを形成させ、専門分野を超えた学際的研究を展開できる能力を育成する。

<具体的な取り組み>

- ・京都・奈良の7国公私大学・8企業で構成される「京都クオリアフォーラム」への参画
- ・京都のバイオ系の研究を推進する「京都4大学連携事業」への参画
- ・異分野融合による視点提示型・仮説生成型の学内研究推進プロジェクト「KYOTO AGORA」への参画
- ・専門分野の異なる本学教員が実施する学際共同研究への参画

4. 研究室主宰能力の育成

将来、研究室主宰者(PI)として自由な発想により主体的な研究を推進できる能力を育成する。また、研究倫理教育を通じて、社会の理解と協力を得て、学術研究の信頼性と公正性を確保しつつ、研究活動を適正に推進することのできる高い倫理性を習得する。

<具体的な取り組み>

- ・受入教員以外に、本学の経験豊富な教員をメンターとして配置
- ・独立した研究室運営方法を学ぶため、受入教員やメンターの研究室の運営に参画
- ・オープンファシリティセンターで使用する学内共同研究機器使用料の支援
- ・「研究倫理 e-learning『eAPRIN』」、「研究倫理研修」の受講を必須化
- ・学内教員向けに実施する「科研費獲得支援事業」による支援

5. 女性研究者の育成

女性研究者がその能力を最大限発揮できるよう、出産、育児または介護などのライフイベントと研究を両立させるための研究環境整備を行う。

<具体的な取り組み>

- ・ライフイベント期における研究活動の継続・進展に資するため、大学院生等を研究支援員として配置する「研究支援員制度」の実施
- ・ライフイベントによる研究中断から復帰する研究者の継続的なキャリア形成に資するため、研究費を支援する「研究者リスタート支援制度」の実施